取扱説明書

タンクキャリー動噴

GS2550TR-50

この度は、当社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

- この取扱説明書には、事故を防ぐ重要な注意事項と本製品の取扱方法が指示されています。
- 本製品を使用する前に、本取扱説明書を熟読し、十分理解された上で、ご使用ください。
- 本取扱説明書は必要な時にすぐに参照できるよう、大切に保管してください。
- 本取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合は、ご購入の販売店からお買い上げください。

お知らせ

- 本製品は日本国内専用です。日本国内のみでご使用ください。
- 混合比 50:1 の混合燃料でご使用ください。ガソリンのみで使用するとエンジンは故障します。
- 製品出荷時は、混合燃料が入っておりません。給油してからご使用ください。

株式会社丸山製作所

はじめに

■ 本製品は、次のような作業を目的とした製品です。
・水田作業の病害虫に対する散布剤散布。
・一般畑作物の病害虫に対する散布剤散布。
・果樹一般の病害虫に対する散布剤散布。
・ハウス栽培作物の病害虫に対する散布剤散布。
・花栽培作物の病害虫に対する散布剤散布。
・牧舎・鶏舎等への消毒液・殺虫液の散布。
・庭木・盆栽・芝生の病害虫に対する散布剤散布及び散水。
・都市衛生用消毒液・殺虫液の散布。
・公園等の花壇・街路樹の病害虫に対する散布剤散布。
・雑草防除に対する除草剤の散布。
・野菜・根菜の散水。

■ 目的以外の作業への使用や改造を行った場合は、保証の対象外となります。上記に示した以外での作業や改造が原因での事故に関して、一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■ 製品の仕様変更などにより、ご購入の製品と本書の内容が一致しない場合がございます。

■ 本取扱説明書は一般使用者および業務で本製品を使用される方、現場責任者を対象としています。

■ 関係法令（廃棄物処理法、消防法、農薬取締法）を遵守してください。

■ 万一に備え、労災保険に加入しましょう。
特定農作業従事者、指定農業機械作業従事者は加入できます。詳しくは農協（JA）または都道府県労働局にお尋ねください。

⚠安全に作業するために

■ 使用目的

本製品は健康な 16 歳以上の人が、農薬･消毒薬･殺虫剤などの散布、散水を行う事を目的とした製品です。けがや本製品の破損のおそれがあるため、目的以外の作業へ使用しないでください。

■ 警告表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

⚠ **危 険** … もし警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るもの。

⚠ **警 告** … その警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るおそれがあるもの。

⚠ **注 意** … その警告に従わなかった場合、けがに至るおそれがあるもの。および本製品や周辺の物的損害が発生するおそれがあるもの。

■ その他の表示について

お知らせ … 製品および付属品の取り扱いなどに関する重要な注意事項。

お願い …… 必ず実施していただきたい推奨事項。

■ シンボルマークについて

本製品および取扱説明書に下記のシンボルマークを掲載しています。このシンボルマークの意味をご理解の上で、ご使用ください。



製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止する表示マーク。



製品の取り扱いにおいて、発火、破裂、高温などに関する注意事項であることを示す表示マーク。



製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制する表示マーク。

	ガソリンは引火性が高いので、給油の際は必ずエンジンを停止すること。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ること。		排気ガスは人体に有害です。室内などの換気の悪い場所では運転しないこと。
	火傷防止のため、運転中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやマフラなどの高温部に触らないこと。		

本製品は農薬・消毒薬・殺虫剤の散布、散水をする機械です。
取扱方法を誤ると事故を招きます。下記の注意事項を必ず守ってください。

⚠ 危　険

下記の項目を必ず守ってください。
守らないと発熱、発火、火災やけがの事故に至ります。

- **混合燃料の給油は、屋内や換気の悪いところではしないでください。**
- **混合燃料の給油時や本製品を点検、整備するときは、本製品の近くで喫煙など火を使わないでください。**
- **強酸性･強アルカリ性の液体、化学溶剤、塗料、シンナー、ガソリン、灯油、ベンジン、アルコール、その他引火性の高い液体や人体に有害な薬剤などを使用しないでください。**
- **引火や爆発のおそれがある揮発性物質がある場所では、本製品を使用しないでください。**

- **本製品は防水構造ではありません。絶対に水で濡らさないでください。**
- **製品本体に結露が発生するような屋外や高湿度の環境下に放置しないでください。**
- **本製品にほこりやゴミが付いた状態で運転しないでください。**
- **本製品が作業者から見えない場所で運転しないでください。**

- **混合燃料は静電気により発火･爆発するおそれがあります。必ずガソリン用の専用容器を使用し、直射日光や高温・火気を避けて保管・運搬してください。**
- **混合燃料を給油するときは、エンジンを停止し、エンジンが冷めてから行ってください。**
- **本製品は湿気の少ない屋内の風通しが良い場所に保管してください。**
- **点検・準備・整備はエンジンを停止し、エンジンが冷めてから行ってください。**
- **本製品から離れる場合は、エンジンを停止してください。**

- **混合燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。**
- **作業中に混合燃料が漏れている場合は、火災に至るおそれがあり大変危険です。本製品を停止して、ご購入の販売店に修理を依頼してください。**
- **作業を中断するときは、エンジンを停止してください。**
- **エンジンは停止直後も高温のため、可燃物のない場所に置いてください。**
- **配線およびマフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着、ホコリの堆積などがある場合は、取り除いてください。**
- **排気ガスは高温のため、排気ガスが放出される方向にある枯れ枝･枯葉などの可燃物を取り除いてから作業してください。**
- **車両にて移動するときは燃料を抜き取ってください。**
- **マフラーおよび排気口付近に障害物や燃えやすいものがあると発火するおそれがあります。設置の際には十分注意してください。**

⚠ 警　告

使用目的以外の使用禁止

■ **本製品は、農薬・消毒薬・殺虫剤などの散布、散水を目的とした製品です。目的以外の作業には使用しないでください。**
目的以外に使用すると、安全性を損なうおそれがあります。また、本製品が破損するおそれがあります。

改造禁止

■ **本製品の改造は絶対にしないでください。**
安全性を損ない事故や重傷に至るおそれがあります。
製品本来の性能が発揮できなくなるのみならず、非常に危険です。部品の交換をする場合は、必ず指定の純正部品を使用して正規の位置に確実に取り付けてください。

■ **本製品を他の製品などに組み込んで使用しないでください。**
安全性を損ない事故や重傷に至るおそれがあります。

部品取り禁止

■ **本製品から組立部品や部品単体を取り外して、他の製品で使用しないでください。**
他の製品に使用すると本来の性能が発揮できないだけでなく、使用した製品の破損、事故や重傷に至るおそれがあります。

使用者に関する注意事項

■ **体調の悪いとき、酒類を飲んだときは作業しないでください。**
正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。

■ **16 歳未満の人、妊娠している人は使用しないでください。**
正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。

■ **生理中や産後 1 年を経過していない女性、負傷中などの人は作業しないでください。**
薬剤による影響を受け、薬害に至るおそれがあります。

■ **体内にてペースメーカーを使用している方は、本製品を使用しないでください。**
ペースメーカーが誤作動を起こすおそれがあります。

使用環境に関する注意事項

■ **降雨時や落雷のおそれがあるとき、夜間など見通しが悪いときは作業しないでください。**
感電、被雷、転倒、転落など事故や重傷に至るおそれがあります。

■ **足元が滑りやすい場所、急傾斜地では作業しないでください。**
転倒してけがに至るおそれがあります。

■ **ハシゴに乗っての作業や、木に登っての作業など、足元が不安定な場所では作業しないでください。**
転倒や転落などによりけがに至るおそれがあります。

■ **本製品を室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内など、換気の悪い場所での使用はしないでください。**
エンジンの排気ガスは有害です。換気の悪い場所で運転すると一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。

■ **マフラーの排気ガス出口付近に立たないでください。**
排気ガスは高温のため、やけどなどの重傷に至るおそれがあります。

■ **排気ガス出口から 1m 以内に物を置かないでください。**
排気ガスは高温のため、変色、焼損などの他に火災に至るおそれがあります。

■ **排気ガス出口をさえぎらないでください。**
排気口がふさがれると排気ガスの高温でエンジンの焼損に至るおそれがあります。

■ **エンジンの排気ガスを吸ったり、吸わせないようにしてください。**
一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。

■ **エンジンは運転中、停止直後は高温です。マフラ、シリンダーフィンなどに手を触れないでください。**
やけどをするおそれがあります。

■ **エンジンの運転中、点火プラグや高圧コードには触らないでください。**
感電するおそれがあります。

⚠ 警　告

■ **ポンプから吐き出される水は高圧のため、人や生物に向けて噴霧しないでください。**
けがや損傷に至るおそれがあります。

■ **ノズルの先端をのぞき込まないでください。**
けがや損傷に至るおそれがあります。

■ **本製品は子供の手の届く場所に保管しないでください。**

■ **本製品は子供に使用させないでください。**
不用意な取り扱いによる事故やけがの原因になります。

■ **本製品の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。**
製品が破損するだけでなく、思わぬけがに繋がる場合があります。

■ **無理な体勢での作業はしないでください。**
思わぬけがに至るおそれがあります。

■ **本製品に水や泥をかけないでください。**
故障の原因となります。

■ **薬剤は飲み物や食べ物の容器、ペットボトルなどには移し替えないでください。**

■ **薬剤は人や動物がいる空間には散布しないでください。**
薬害に至るおそれがあります。

■ **運転中または運転直後の各部は高温になります。**
触ると、やけどやけがに至るおそれがあります。

■ **本製品の点検整備、修理などは、エンジンを停止して各部が十分冷えてから行ってください。**
やけどやけが、事故に至るおそれがあります。

■ **作業はできるだけ平坦な場所で周囲を片付けてから行ってください。**
製品が破損するだけでなく、思わぬけがに至るおそれがあります。

■ **必要に応じて対象物の周りをシートなどで覆い、建物などへの飛沫を防止してください。**
薬液、泥、砂などの跳ね返りで思わぬ事故に至るおそれがあります。

本製品を他人に貸すとき

■ **本製品を他人に貸す場合は取扱方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。**
正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。

■ **ホースの接続は、パッキンまたは O リングがあることを確認して、確実に取り付けてください。**
ホースが外れたり、水漏れによる薬害、エアの吸い込みによる吸水不良に至るおそれがあります。

■ **本製品の設置場所および作業場所には、関係者以外立入禁止にしてください。**
子供や動物を近付けると薬害や事故の原因となります。

■ **高所作業の場合は、命綱を着用してください。**
転倒や転落などによりけがや事故に至るおそれがあります。

■ **薬剤の取り扱いに注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。**
そのまま放置すると、失明や重傷に至ることがあります。

■ **水道、河川、池、沼などを汚染しないよう十分に注意してください。**
環境汚染などを引き起こし思わぬ事故に至るおそれがあります。

■ **製品は大事に扱ってください。**
誤って落としたり、ぶつけたりしますと変形や亀裂、破損を生じる場合がありますので十分注意してください。

⚠ 警　告

■ **作業中に、機械の不調や異常に気がついた場合は直ちに作業を中止し、エンジンを停止してください。**
思わぬ事故やけがに至るおそれがあります。
※ 点検・修理は販売店にお願いしてください。

作業着、保護具について

正しい服装の一例



■ **身体を露出しないように、防水性保護衣、帽子、耳栓、保護メガネ、保護マスク、防水性保護手袋、作業靴の保護具を必ず装着してください。**
保護具が不適切な場合、薬剤が身体に付着し薬害をおこしたり、高圧水や飛散物でけがに至るおそれがあります。

■ **薬剤のラベル、取扱説明書をよく読み、必ず記載されている内容を確認してください。**
■ **薬剤の知識を十分に持った人が薬剤を取り扱ってください。**
■ **薬剤の使用中に体に異常を感じたときは、作業を中止し、直ちに医師の診察を受けてください。**
■ **薬剤は安全な場所に保管し、運搬するときは容器が破損しないように気をつけてください。**
守らないと、薬害に至るおそれがあります。
■ **風向きを考慮して、周辺の他の作物や畜舎、養魚池、水源地、河川、湖沼、住宅、通行人に飛散させないように散布してください。**
薬剤の飛散により、薬害に至るおそれがあります。
■ **風上から風下に向かって作業してください。**
風下から作業すると作業者が薬剤を浴びて、薬害に至るおそれがあります。
■ **作業が終わったら、全身をよく洗ってください。目をきれいな水で洗い、うがいをしてください。**
身体に薬剤が付着していると、薬害に至るおそれがあります。
■ **作業に使用した作業衣は、他の洗濯物に薬剤が付かないよう分けて洗濯してください。**
一緒に洗濯してしまうと、薬剤がほかの洗濯物に付き、薬害に至るおそれがあります。

⚠ 注　意

泥水使用禁止

■ **泥や砂が含まれる水は使用しないでください。**
故障の原因になります。水道水を使用してください。

ポンプの取り扱い

■ **水が無い状態で、30 秒以上の運転はしないでください。**
故障に至るおそれがあります。

■ **飲料水の汲み上げなどには使用しないでください。**
■ **吸水ホースや余水ホースの接続部分のオネジに素手で触らないでください。**
けがをするおそれがあります。接続時は保護手袋を着用してください。
■ **作業中や停止直後はエンジンのマフラや排気口にホースを接触させないでください。**
損傷するおそれがあります。
■ **巻車の回転部に手を入れないでください。**
けがをするおそれがあります。

⚠ 注 意

■ **5 ～ 40℃の水を使用してください。**
高温水の使用は故障の原因となります。

■ **気温 20 ± 15℃の雰囲気で使用してください。**
事故の原因となります。

■ **ホースは、まっすぐに伸ばしてから使用してください。**
ホースが折れて破損のおそれがあります。

■ **運転時や運搬時、保管時にマフラーから水や雨を侵入させないでください。**
守らないと本製品が故障するおそれがあります。

■ **噴霧ホースは全て引き出してから使用してください。**
本製品を始動すると、水圧により、ホースは膨張します。
巻車に巻いたまま使用すると、ホースの膨張により巻車が破損するおそれがあります。

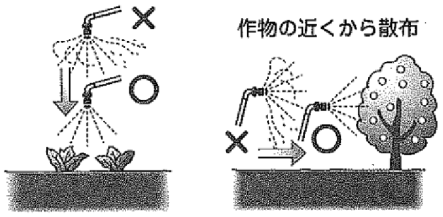
■ **噴霧ホースの引き出しはゆっくりと行ってください。**
守らないと破損や故障に至るおそれがあります。

■ **噴霧ホースを巻き取るときは、ホースが重ならないように整列させながら巻き取ってください。**
ホースがねじれたり、折れ曲がった状態で巻き取ると、絡まりや破損の原因になります。

■ **使用する薬剤の取扱説明書をよく読んで、用法、用量、使用上の注意を守って正しくご使用ください。**
濃度や散布量、薬剤の種類を間違えると、作物が薬害に至るおそれがあります。また本製品の消耗を早めます。

下記の項目を必ず守って、散布作業をしてください。
誤った散布作業を行うと薬剤がドリフトし、周辺作物や周辺住民などが薬害に至るおそれがあります。

■ **風の弱い時に散布してください。**
■ **散布の位置や方向に注意してください。**
■ **適正なノズルを使い、適正な圧力で散布してください。**
■ **適正な量を散布してください。**
■ **園地の端部での散布作業は特に注意してください。**
■ **散布しようとする作物以外に、農薬がドリフトしないように細心の注意を払って散布してください。**



始業点検の重要性

■ **作業の前に始業点検を行ってください。**
作業前に点検を行い、処置することにより故障や事故を未然に防ぐことができます。詳細は**21 ページの「4. 始業点検（作業前点検）」**を参照してください。

警告ラベルの取り扱い

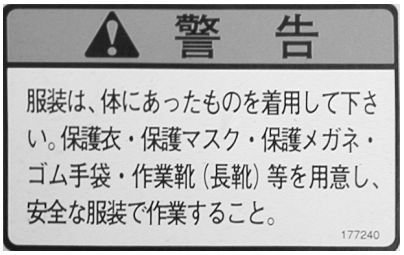
⚠ 注 意

下記の項目を守ってください。
本製品の正しい使い方を確認できず、けがに至るおそれがあります。

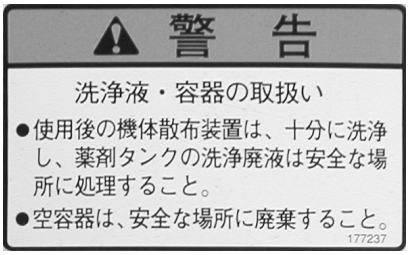
- **■ 警告ラベル表面の汚れや泥をとり、いつも表示内容がはっきりと見えるようにしてください。**
- **■ 警告ラベルが損傷したときは、新しいラベルを同じ位置に貼り替えてください。**
  ※ 新しいラベルについては、ご購入の販売店に部品番号で注文してください。
- **■ 警告ラベルが貼ってある部品を交換したときは、その部品にも必ず新しい警告ラベルを同じ場所に貼ってください。**

※ 本製品には、下の図に示す位置に下記の警告ラベルが貼ってあります。
本製品のご使用前に **1 ページの「■ シンボルマークについて」**を参照し、その意味を理解した上で、下記ラベルの表示内容を守って作業してください。また型式名、製造番号は、アフターサービスを受けるときに必要です。ご確認の上、裏表紙にメモしてください。

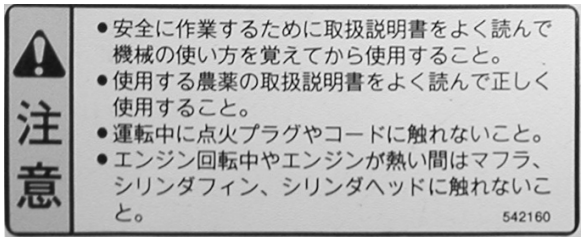
① 注意ラベル（部品番号 :177240）



② 警告ラベル（部品番号 :177237）

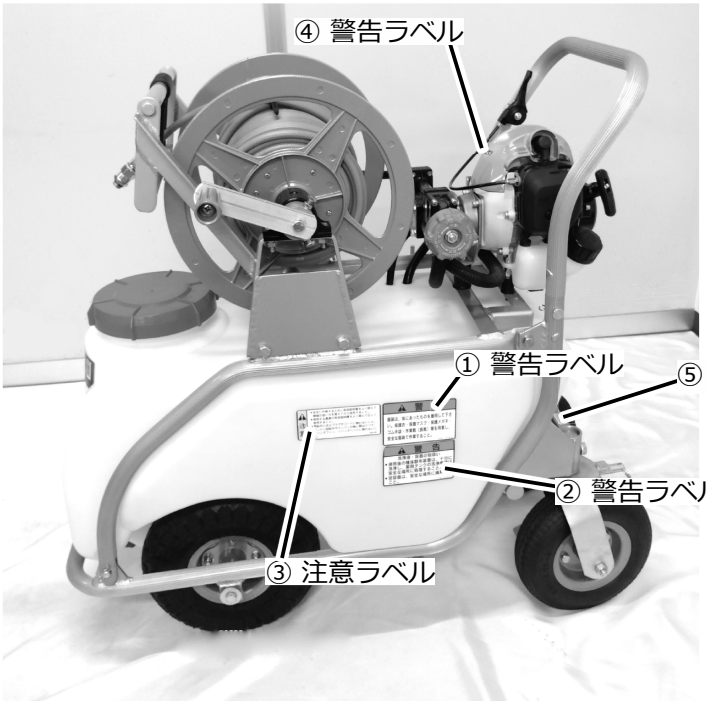


③ 注意ラベル（部品番号 :542160）



④ 警告ラベル（部品番号 :269705）





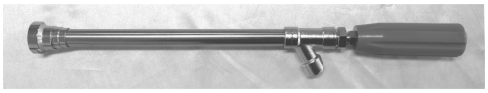
目次

⚠安全に作業するために…… 1
警告ラベルの取り扱い…… 7
1. 梱包品と各部のなまえ …… 9
(1) 梱包品の確認 …… 9
(2) 各部の名前 …… 10
(3) 各部の働き …… 11
2. 組み立て …… 13
3. 作業の準備 …… 14
(1) 作業者の服装と保護具の装着 …… 15
(2) 運搬の仕方 …… 15
(3) 作業現場の整備 …… 15
(4) 作業計画 …… 15
(5) 設置 …… 16
(6) 燃料の給油 …… 17
(7) ガソリンおよび混合燃料の廃棄 …… 18
(8) ホース、ノズルの接続 …… 19
(9) 運転条件 …… 20
4. 始業点検（作業前点検）…… 21
5. 運転の仕方 …… 22
(1) 始動の前に …… 22
(2) 給水 …… 23
(3) 始動 …… 23
(4) 停止 …… 25
(5) 緊急停止 …… 25
(6) エンジンの始動フロー …… 26
6. 散布前準備 …… 27
(1) 噴霧確認 …… 27
(2) 薬剤の準備 …… 28
7. 散布作業 …… 30
(1) 散布作業 …… 30
(2) 散布作業後 …… 32
8. 点検・整備 …… 34
(1) 定期点検 …… 34
(2) 整備 …… 35
(3) 混合燃料の作成 …… 39
9. 長期保管 …… 41
10. 故障と対策…… 42
11. 転売・譲渡・廃棄…… 44
12. 主要諸元…… 44

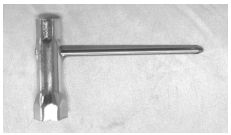
1. 梱包品と各部のなまえ

(1) 梱包品の確認

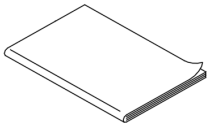
開梱時に下図を参照して部品が揃っているか、破損や変形はないかを確認してください。問題がある場合は、ご購入の販売店にご連絡ください。



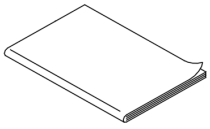
ノズル /1 本



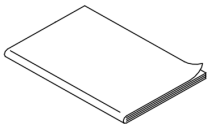
コンビボックススパナ /1 個



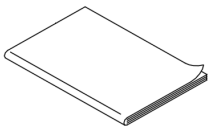
ｸｲｯｸｽﾀｰﾄﾏﾆｭｱﾙ /1 冊



安全マニュアル /1 冊



補足説明書 /1 冊



保証書 /1 冊

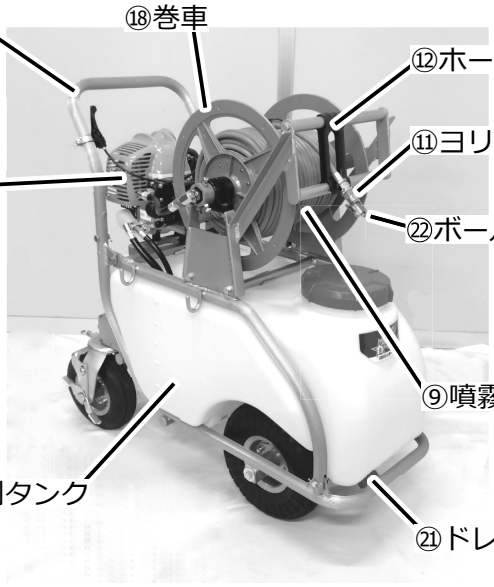
■ 付属品リスト

名称	部品番号	備考	数量
ノズル	830048	1.4 ペットズーム	1
コンビボックススパナ	210418		1
ｸｲｯｸｽﾀｰﾄﾏﾆｭｱﾙ	837342		1
安全マニュアル	837339		1
補足説明書	831219		1
保証書	-		1

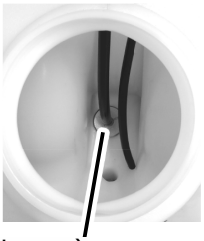
(2) 各部の名前

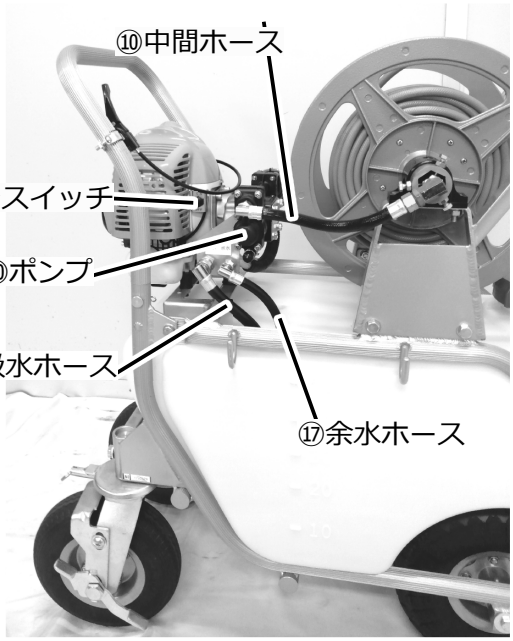
各部の詳細については「(3)各部の働き」を参照してください。

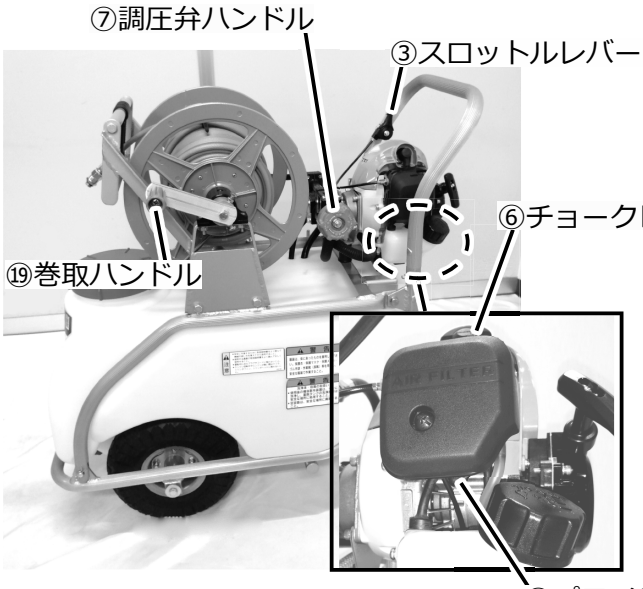
<本製品>





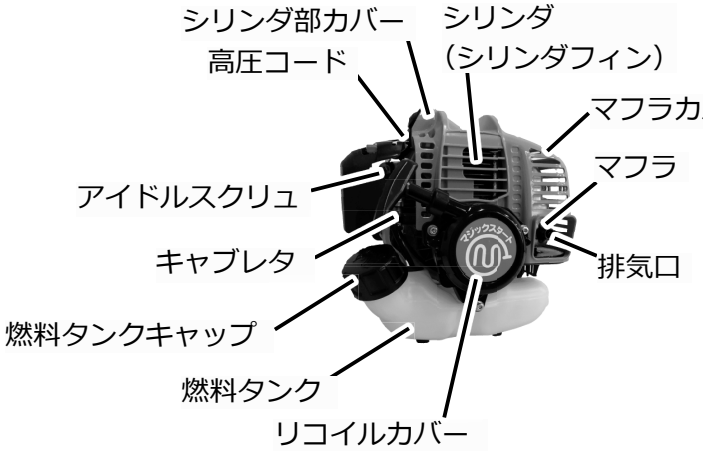








<エンジン>



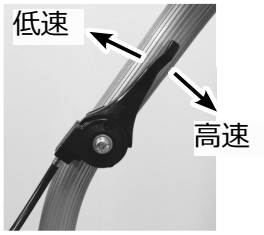


(3) 各部の働き

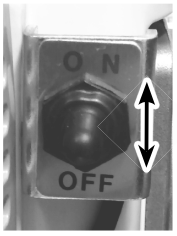
① ハンドル
移動時はこれを支えてください。

② エンジン
本製品の動力源です。

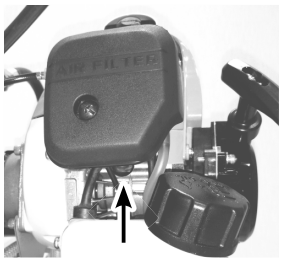
③ スロットルレバー
エンジンの回転を調整します。



④ エンジンスイッチ
エンジンの「ON」、「OFF」を切り替えるスイッチです。



⑤ プライミングポンプ
エンジンを始動するときに使用します。
矢印方向に押す、離すを 10 回程度繰り返すことでエンジン気化器まで燃料が送られます。



⑥ チョークレバー
エンジンへ供給する空気量を調節します。エンジンが冷えている場合、チョークレバーを「閉」にしてエンジンを始動し、始動後は「開」にしてください。



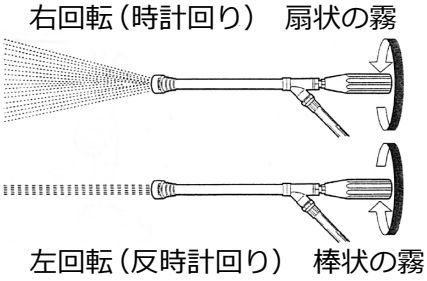
⑦ 調圧弁ハンドル
調圧弁ハンドルを回すことで噴霧圧力を調整します。



<始動>
エンジン始動時及びポンプ吸水時に合わせます。
<除草>
除草剤散布などの低圧で噴霧する時に合わせます。
<噴霧>
通常の噴霧作業の時に合わせます。
<高圧>
高圧噴霧作業や噴霧ホースを長くして使用する時や、細かい霧の散布をするときに合わせます。

⑧ ノズル

ノズルで薬液を拡散し、噴霧します。
ノズルニギリを回すことで噴霧作業（対象物、防除形態）にあわせ、霧の状態を調整することができます。
右方向に回し切ると、ノズルからの噴霧は停止します。



⑨ 噴霧ホース ⑩中間ホース

加圧した薬液をノズルへ送る為のホースです。

⑪ ヨリ戻し金具

ホースのヨリ、ねじれを防止する金具です。

⑫ ホースガイド

噴霧ホースを引き出す際、ホースガイドを通すことで、ねじれ、絡まりを防止します。

⑬ 薬剤タンク

薬液を入れるタンクです。

⑭ 吸水ホース

タンクから薬液を吸い込む為のホースです。

⑮ 吸水ストレーナ（タンク）

ゴミや異物が薬剤タンク内に入るのを防ぎます。

⚠ 注　意

■ **薬剤タンクへの給水は、必ず給水ストレーナを取り付けた状態で行ってください。**
守らないと、異物が混入し、本製品の故障に至るおそれがあります。

⑯ 吸水ストレーナ（ホース）

ゴミや異物がホース、ポンプ内に入るのを防ぎます。

⑰ 余水ホース

ポンプ内の余分な薬液をタンクに戻す為のホースです。
※圧力と霧の状態により余水量は変化します。

⑱ 巻車

噴霧ホースを巻き取る為の巻車です。

⑲ 巻取ハンドル

ホース巻き取り時は、このハンドルで巻車を操作します。

⑳ ポンプ

吸水ホースから水を吸い込み、加圧して噴霧ホースへ送ります。

㉑ ドレンキャップ

キャップを外し、薬剤タンク内の水を排出します。

㉒ ボールコック

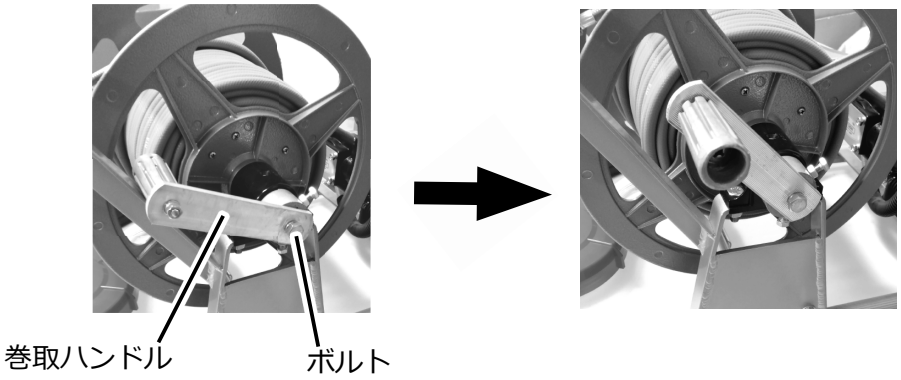
コックを操作し、ノズルからの「噴霧」、「停止」を切り替えます。

2. 組み立て

警　告
■ **本項に記載の内容を十分理解したうえで、正しく組み立ててください。** 組み立てを誤ると事故や重傷に至るおそれがあります。

注　意
■ **開梱時など本製品を持ち上げるときは、無理に一人で持ち上げたり、無理な姿勢で持たないでください。** 本製品は重量物です。腰を痛めたり機械落下によるけがに至るおそれがあります。
■ **ボルトは確実に締め付けてください。** 締付けが緩いとハンドルが外れ、事故やけがに至るおそれがあります。また、ノブボルトが破損するおそれがあります。

巻取ハンドルを固定しているボルトをゆるめて、ハンドルを取り外してください。
取り外したハンドルは、反対（取っ手を外側）に取り付けてボルトで固定してください。



3. 作業の準備

⚠ 危　険

下記の項目を必ず守ってください。
守らないと火災や事故に至ります。

- **混合燃料、ガソリンは火気により爆発の危険があります。火気厳禁で取り扱ってください。**
- **混合燃料の補給はエンジンを停止し、冷えてから行ってください。**
- **混合燃料の給油は、屋内や換気の悪いところではしないでください。**
- **混合燃料、ガソリン、オイルがこぼれた場合は、きれいに拭きとってください。**
- **配線およびマフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着、泥やホコリの堆積などがある場合は、取り除いてください。**
- **混合燃料はガソリン用の専用容器に入れて保管、運搬してください。**

⚠ 警　告

- **密閉されたところや通気の悪い場所では運転しないでください。**
  一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。

⚠ 注　意

- **無用な人は作業の現場に近づけないでください。**
  作業の現場に近づくと、事故やけがに至るおそれがあります。

- **取扱説明書をよく読んで、本製品の操作に慣れて正しい安全作業を行ってください。**
  正しい安全作業を行わないと、事故やけがに至るおそれがあります。
- **本製品に使用する部品は必ず、44 ページの「12. 主要諸元」を参照頂き、本製品の規格に対応した純正部品をお買い求めください。**
  間違った規格の部品を使用すると、事故やけがに至るおそれがあります。また、本製品の故障の原因となります。規格の選定でご不明な点がありましたら、ご購入の販売店にお問い合わせください。

お願い

- 事故やけがに備え救急箱や止血道具（タオルなど）を携行してください。応急処置が行えず、傷が悪化するおそれがあります。なお、最寄りの消防本部・消防署で実施している救命講習の講習会に参加して、応急手当の知識と技術を身に付けておくことを推奨いたします。
- 万一の事故に備えて緊急時に連絡できるようにしてください。また、家族などにも緊急連絡先（医療機関・消防署など）がわかるようにしてください。携帯電話などの緊急時の連絡手段の携帯を推奨いたします。
- 燃料を取り扱う前に、発火・発煙・火災にそなえ消火器具、消火器、簡易消火器具（乾燥砂、砂ををかけるためのスコップなど）を準備してください。なお、緊急時にあわてないように、消火器具などの使用方法を習得しておいてください。
- 作業の準備を始める前に、油脂類などは、お客様が準備をお願いします。その他のご希望、ご要望がありましたら、44 ページの「12. 主要諸元」を参照し、製品仕様に対応した規格の純正部品をご購入の販売店にてご相談、お買い求めください。
- 機体を長時間、野外に放置しないでください。

(1) 作業者の服装と保護具の装着

作業に適した服装をして必要な保護具を装着してください。詳細は 5 ページの「作業着、保護具について」を参照してください。

⚠ 警 告

■ **体を露出しないように、防水性保護衣や保護具などを必ず装着してください。**
体が露出していると薬剤が体に付着し、薬害に至るおそれがあります。

(2) 運搬の仕方

本製品を作業場所まで運ぶときは、下記の注意事項を守ってください。

⚠ 危 険

■ **運転中に本製品を移動しないでください。**
火災や事故に至ります。

⚠ 注 意

■ **本製品を持ち上げるときは、無理に一人で持ち上げたり、無理な姿勢で持たないでください。**
本製品は重量物です。腰を痛めたり、機械落下によるけがに至るおそれがあります。
■ **本製品を必要以上に傾けたり、移動時に手を離さないでください。**
機械転倒によりけがに至るおそれがあります。

■ **自動車などで運搬するときは、本製品が転倒しないように固定してください。**
■ **本製品の移動はハンドルをしっかりと持って行ってください。**
機械転倒により本製品の損傷、けがに至るおそれがあります。
■ **移動は、エンジンが十分冷えてから行ってください。**
やけどのおそれがあります。

(3) 作業現場の整備

作業現場にある障害物は事前に取り除いてください。また、屋内で作業をする際は、換気ができるようにしてください。

⚠ 警 告

■ **本製品を屋内で使用するときは、換気に注意してください。**
換気が不十分だと一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。

⚠ 注 意

■ **作業現場に障害物がないことを、作業前に十分に確かめてください。**
障害物の近くで作業をすると、転倒してけがに至るおそれがあります。

お願い

■ 必要に応じて対象物の周りをシートで覆い、建物等への飛沫を防止してください。

(4) 作業計画

作業を行う前にあらかじめ作業場所、作業手順、緊急時の対応などを決めた作業計画を立ててください。

(5) 設置

本製品を設置するときは、下記の注意事項を守ってください。

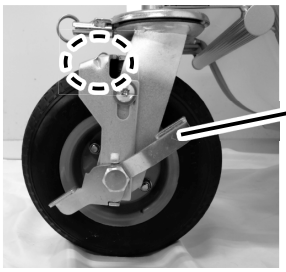
⚠ 危　険	
⚠	■ **定置配管に接続し、無人運転や連続運転を行わないでください。** 守らないと火災や事故に至ります。

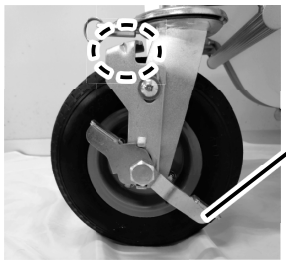
⚠ 警　告	
⊘	■ **火気やガソリンなどの危険物、燃えやすいものの近くに設置しないでください。** 火災に至るおそれがあります。

⚠ 注　意	
⊘	■ **本製品には作業者以外の人や動物を近づけないでください。** 高圧水にあたるとけが、事故に至るおそれがあります。 ■ **本製品を設置した周りには物を置かないでください。** 操作部は、無理のない姿勢で見えるようにし、操作できるようにしてください。 ■ **設置時に衝撃を与えないでください。** 損傷するおそれがあります。
❗	**下記の項目を必ず守ってください。** 守らないと事故やけが、故障に至るおそれがあります。 ■ **本製品は、対象物と十分に離し、作業中に水や飛沫がかからない水平で平坦な場所に設置してください。** ■ **衝撃・落下物がなく、本製品が転落することのない安全な場所に設置してください。** ■ **本製品の移動はハンドルをしっかりと持って行ってください。**

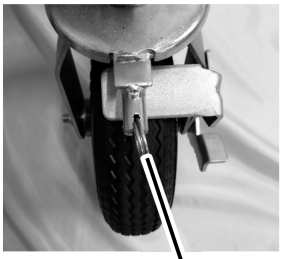
本製品の車輪は以下の様にロック状態、作動状態を切り替えることができます。

<車輪のロック、作動切り替え>





<車輪の回転(360°)のロック、作動切り替え>



ロック状態
※リングを引っ張り、垂直方向の切り欠きに合わせ、車輪を回転させると、進行方向の位置で車輪がロックされます。



作動状態
※リングを引っ張り、水平方向の切り欠きに合わせると、車輪が 360°回転可能になります。

(6) 燃料の給油

使用前にエンジンに混合燃料を給油してください。

危 険

- **混合燃料は引火性の高い燃料です。必ず火気厳禁を守ってください。**
  引火して火災に至ります。
- **混合燃料を給油するときは必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。**
  蒸発した燃料ガスに引火して火災に至ります。
- **混合燃料の保管はガソリン用の専用容器を使用してください。**
  守らないと火災や事故に至ります。

① 混合燃料の用意

市販の 2 サイクル用混合燃料 (50:1 表示) を用意してください。
混合燃料の作成方法を理解している方は、39 ページの「(3) 混合燃料の作成」を参照して混合燃料を作成してください。

注 意

- **混合燃料を給油してください。**
  ガソリンだけで運転すると、エンジンが焼き付き故障に至るおそれがあります。
- **混合燃料は容器に表示された保存期間を守ってください。保存期間が表示されていない場合は、1 カ月以上経過した燃料は使用しないでください。**
  長期保管した燃料を使用するとエンジンが故障に至るおそれがあります。

お知らせ

■ **混合燃料について**

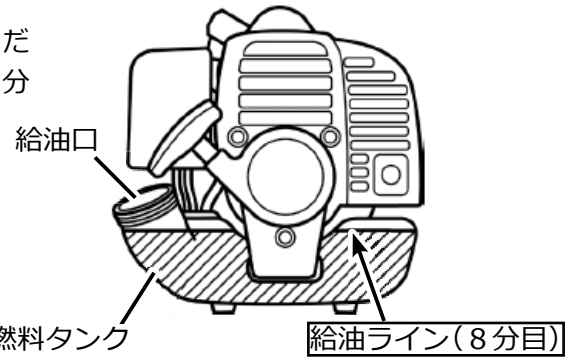
市販の混合燃料を使用する場合は、50:1 仕様のものを使用してください。35 ページの「■ 給油一覧表」の項にて純正混合燃料を紹介しています。

お願い

■ 燃料は変質しやすいので、保管量は最小限にしてください。

② 混合燃料の給油

燃料タンクに混合燃料を少しずつ、ゆっくりと入れてください。混合燃料は燃料タンクいっぱいに入れないで、8 分目（給油口先端より約 2cm）を目安にしてください。



警　告

こぼれた混合燃料の放置または燃料漏れなどがないように、下記の項目を必ず守ってください。
火災につながり、死亡または重傷に至るおそれがあります。

- **混合燃料はこぼさないように注意して入れてください。こぼした場合はきれいに拭き取ってください。**
- **燃料タンクのキャップはしっかり締めて、給油口から混合燃料が漏れないことを確認してください。燃料漏れがある場合はキャップを増し締めしてください。もし燃料漏れが止まらない場合は、使用を中止し直ちにご購入の販売店へご相談ください。**
- **給油時にエンジンや燃料タンク、燃料ホース、オーバーフローパイプ、ホース類の接続部からの燃料漏れや滲みがないか確認してください。もし燃料漏れや滲みがある場合は、使用を中止し直ちにご購入の販売店へご相談ください**
- **湿度の低いときは、静電気が発生しやすくなり、燃料に引火するおそれがあります。地面を触るなどして静電気を除去してから給油してください。**

お知らせ

■ **ガソリンの購入について**

令和 2 年 2 月 1 日から危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令（令和元年総務省令第 67 号）により、ガソリンを販売するため容器に詰め替えるときは、顧客の本人確認、使用目的の確認および販売記録の作成を行うこととされました。そのため、ガソリンを購入する際は本人確認書類の提示の要求や使用目的が聞き取りされ販売業者に販売記録が作成されます。ガソリンスタンドで購入の際は本人確認書類・消防法令に適合したガソリン携行缶を用意し、ガソリン購入時に販売記録の作成に協力してください。

お願い

■ 燃料は変質しやすいので、保管量は最小限にしてください。

（7）ガソリンおよび混合燃料の廃棄

ガソリン及び混合燃料は危険物であり、廃棄物処理法の特別管理廃棄物に相当します。みだりに廃棄すると法令による処罰の対象となります。廃棄する場合はお住まいの自治体の廃棄物担当部署に、ガソリン、または 2 サイクル用オイル混合燃料であることを明示して相談し、指示に従ってください。または、危険物を取り扱う専門の産業廃棄物処理業者に処分を依頼してください。

(8)ホース、ノズルの接続

⚠ 警　告

■ **ホース、ノズルの取り付けは確実に行ってください。**
接続が外れると思わぬ事故やけがの原因となります。

■ **ホースやノズル接続部など、パッキンのある部分を組み立てる際は、パッキンに異常がなく、正しく付いていることを確認した上で、確実に締めてください。**
パッキンが正しく付いていなかったり、傷や変形があると薬剤が漏れて薬害に至るおそれがあります。

■ **ホースやノズル接続部など、パッキンのある部分を締付ける際は、強く締めすぎないでください。**
締め付けが強すぎると、パッキンが破損して薬剤が漏れ、また弱すぎてもすき間から薬剤が漏れて、薬害に至るおそれがあります。

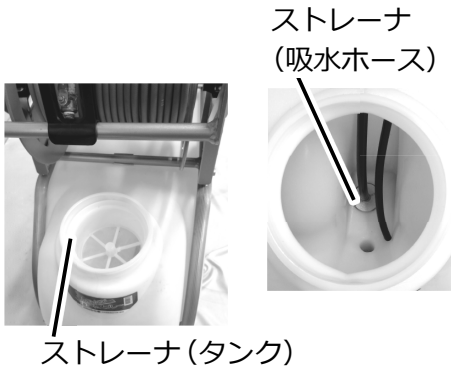
⚠ 注　意

■ **ホースはまっすぐに伸ばしてから、確実に取り付けてください。**
接続が不完全な場合や、ホースの折れ・つぶれは、吸水不良や異常な振動を生じる原因となり、機械の寿命を縮めるおそれがあります。

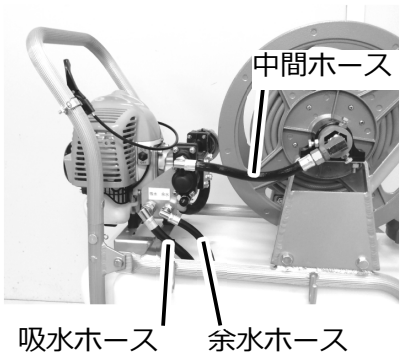
■ **接続時は保護手袋を着用してください。**
接続用のネジ部を素手で触るとけがをするおそれがあります。

お願い
■ **使用する前にストレーナを清掃してください。**

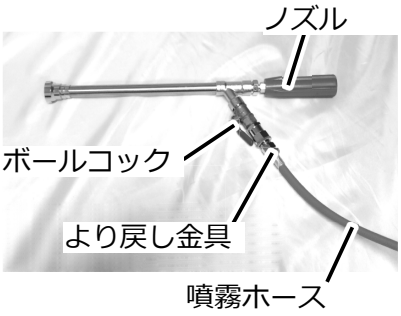
① 吸水ホース、タンクのストレーナにゴミがついていないか確認し、ゴミや詰まりがある場合はストレーナを清掃してください。



② 各ホースがしっかりと接続されている事を確認してください。



③ 噴霧ホース先端のボールコックのパッキンに異常がないか確認し、その先にノズルを取り付けてください。



(9) 運転条件

⚠ 注 意	
	■ **泥や砂など異物の多い水は使用しないでください。** ■ **本製品を必要以上に傾けたり、移動時に手を離さないでください。** 機械転倒によりけがをするおそれがあります。
	■ **本製品は単独運転のみで使用し、他の製品や装置に接続、組み込んで運転しないでください。** ■ **自動散布装置には接続しないでください。** 事故やけが、故障に至るおそれがあります。
	周囲環境について ■ **常温（20 ± 15℃）で使用してください。寒冷時の屋外や炎天下での使用はしないでください。また、雨天時の屋外での使用、水や飛沫がかかるような状態での使用はしないでください。** 故障の原因となります。
	**使用液について** ■ **5 ～ 40℃の液体を使用してください。** 高温水の使用は製品の故障を引き起こす原因となります。 ※使用液に関する注意事項については 2 ページを参照ください。

4. 始業点検（作業前点検）

その日の作業を始める前に行う点検が始業点検です。作業前に点検を行うことにより、事故や故障を未然に防止することができます。非常に大切な点検のため、必ず実施してください。もし、ご自身での点検に不安のある方や交換・修理が必要な場合は、ご購入の販売店にご相談ください。

⚠ 警　告

■ **始業点検一覧表に基づき点検を実施し、必要な場合は処置を施してください。**
必要な処置をしないと死亡または重傷に至るおそれがあります。

⚠ 注　意

■ **始業点検は必ずエンジンを停止して行ってください。**
点検中に誤作動させ、事故やけがに至るおそれがあります。

始業点検一覧表

点　検　項　目	点　検　内　容	処　置
エンジン	エンジンスイッチはスムーズに作動するか	修理・交換
	燃料タンクの混合燃料に不足はないか	給油
	燃料漏れはないか	修理
	エアクリーナに汚れはないか	清掃
	リコイルカバー周辺にゴミなどはないか	清掃
	マフラカバー周辺にゴミなどはないか	清掃
車輪	亀裂、劣化はないか	修理・交換
噴霧ホース 余水ホース 中間ホース	ホースに汚れ、割れ、つぶれ、傷はないか	修理・交換
	ホース接続金具のパッキンは正常か	修理・交換
吸水ホース ストレーナ	ホースに折れ、つぶれ、傷はないか	修理・交換
	ホース接続金具のパッキンは正常か	修理・交換
	ストレーナにゴミはついていないか	清掃
ノズル	摩耗・つまりはないか	清掃・交換
薬剤タンク	ストレーナにゴミはついていないか	清掃
全体	ボルト、ナット類のゆるみ	増し締め
	水漏れ・燃料漏れ跡はないか	修理
	各部に汚れはないか	清掃

5. 運転の仕方

(1)始動の前に

※ 必ず点検・修理を行ってから使用してください。点検・修理は販売店にお願いしてください。

1) 運転時・作業時の注意

⚠ 危 険

■ **海水の飛沫がかかるような場所や塩分の多い環境下で使用しないでください。**
部品の錆・接触不良・絶縁不良・劣化などにより漏電・感電・ショート・発熱・発火・故障に至ります。

■ **ほこりやゴミが付いたまま使用しないでください。必ず取り除いてから使用してください。**
ゴミが付いたまま使用すると発熱・発火に至ります。ほこりの少ない屋内に保管してください。

⚠ 警 告

■ **ノズルは絶対に人や動物に向けないでください。**
高圧水で思わぬ事故や失明、重傷に至るおそれがあります。

■ **噴射した水の中に手足を入れないでください。**
高圧水で思わぬ事故や重傷に至るおそれがあります。

■ **ノズルの先端を覗き込まないでください。**
高圧水で思わぬ事故や失明、重傷に至るおそれがあります。

⚠ 注 意

■ **無線装置の近くでは、運転しないでください。**
エンジンから発生する電波雑音は無線装置に影響を与えるおそれがあります。影響がある場合は使用を中止してください。

■ **本製品を倒したり、ぶつけたりしないでください。**
本製品が故障に至るおそれがあります。

■ **純正品以外のノズルを使用しないでください。**
本来の性能が発揮できないだけでなく過負荷により機器の故障や発熱の可能性があります。

■ **本製品を作業者から見えない場所で運転することはしないでください。**
万が一異常が発生した場合に発見が遅れる原因となります。

■ **ホースを折り曲げたり、偏った方向に引いたり、ホースで製品を引っ張ることはしないでください。**
ホースの破裂による事故やけがの原因となります。

■ **作業中に水漏れやホースからの振動を感じたら直ちに使用を中止してください。**
思わぬ事故や故障の原因となります。

■ **必要に応じて薬剤タンクに水を補給してください。**
水がない状態での運転は本製品の故障に繋がります。薬剤タンクに水が少なくなったら直ちに本製品を停止し、薬剤タンクに水を補給してください。

■ **不具合を発見したときは、直ちに作業を中止し、整備・修理してください。**
整備不良のまま作業を続けると、けがや本製品の損傷に至るおそれがあります。

(2) 給水

⚠ 警　告

■ **飲料水源および生物を飼育している湖沼からの直接給水は、絶対に行わないでください。**
飲料水源を汚染すると法律により、罰せられることがあります。

お願い

■ ５～４０℃の水を使用してください。高温水の使用や泥や砂を含んだ水の使用は故障の原因になります。
※使用液に関する注意事項については２ページを参照ください。

■ 外気温が低くポンプが凍結しているおそれがある場合は、ポンプをビニール袋に入れた温水などで温めてから使用してください。ポンプが凍結したまま使用するとポンプが破損します。

■ 目詰まり防止のため、使用する度に吸水ストレーナを清掃してください。

■ 吸水ストレーナが完全に水中に沈むようにしてください。故障や吸水不良の原因になります。

薬剤タンクに必要量の水を入れてください。

(3) 始動

⚠ 危　険

下記の項目を必ず守ってください。
守らないと火災や事故に至ります。

■ **本製品から離れる場合は、必ずエンジンを停止してください。**
守らないと事故やけが、故障に至るおそれがあります。

■ **排気ガスは高温です。排気ガスが放出される方向にある枯れ枝・枯葉などの可燃物を取り除いてから作業してください。また、排気ガスが肌や衣類に触れないようにしてください。**

⚠ 警　告

■ **エンジンを始動する前に、周囲を良く見渡し本製品の近くに人、特に小さな子供やペットがいないことを確認してください。**
本製品が急に動き出し、人身事故や傷害事故に至るおそれがあります。

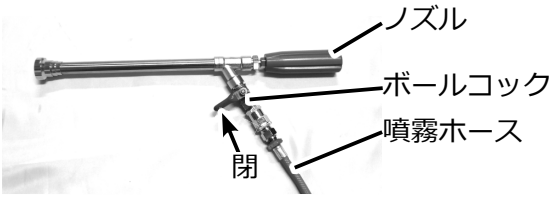
⚠ 注　意

■ **本製品の通気を妨げるような場所で、運転しないでください。**
エンジンの吸気や排気を妨げると、本製品が故障に至るおそれがあります。

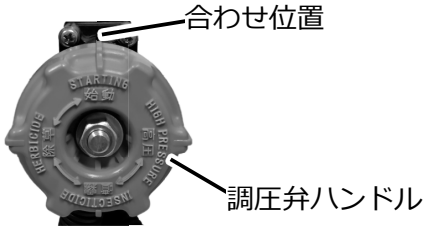
■ **噴霧ホースは全て引き出してから使用してください。**
本製品を始動すると、水圧により、噴霧ホースは膨張します。
巻車に巻いたまま使用すると、ホースの膨張により巻車が破損するおそれがあります。

■ **噴霧ホースの引き出しはゆっくりと行ってください。**
守らないと破損や故障に至るおそれがあります。

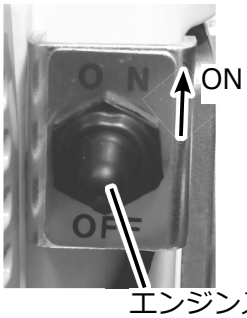
①噴霧ホースを巻車から全て引き出してください。
②ボールコックを閉じてください。



③調圧弁ハンドルを「始動位置」にします。



④エンジンスイッチを「ＯＮ」にしてください。

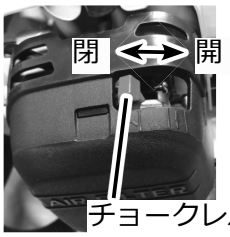


⑤スロットルレバーを中速位置にしてください。

⑥プライミングポンプを矢印方向に押す、離すを 10 回程度繰り返してください。オーバーフローパイプから燃料タンクに混合燃料が戻ります。



⑦チョークレバーを「全閉」の位置にしてください。但し、エンジンが暖まっている時はチョークレバーを「開」の位置にしてください。



⑧リコイルスタータハンドルを数回勢いよく引いてください。



⑨エンジンが始動したら、ゆっくりチョークレバーを（開）の位置に戻してください。

※ エンジンが始動しない場合は下記の操作をしてください。

- 爆発音がしエンジンがすぐに止まったときは、チョークレバーを（開）側にして、さらにリコイルスタータハンドルを引いて始動してください。
- リコイルスタータハンドルを 3 回程度引いても爆発音がしない、または聞き逃した場合は、チョークレバーを（開）側にしてエンジンが始動するまで数回リコイルスタータハンドルを引いてください。

⚠ 注　意

❗	■ **リコイルスタータハンドルを引いた後は、リコイルスタータハンドルから手を離さずに戻してください。** リコイルスタータハンドルを引いてすぐに手を離すと、身体に当たって怪我をしたり、リコイル装置や周りの部品の故障に至るおそれがあります。
🚫	■ **チョークレバーが（閉）側のままリコイルスタータハンドルを何回も引き続けないでください。** 混合燃料がエンジンシリンダの中へ入り過ぎて、エンジンが始動できなくなるおそれがあります。

お願い

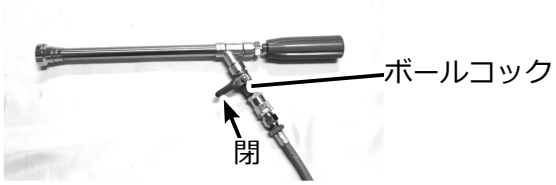
■ リコイルスタータハンドルは、勢い良く引いてゆっくり戻してください。

⑩エンジン始動後、ポンプも始動し、吸水を始めますので、吸水ホース、余水ホースを通り、薬剤タンクの水が循環している事を確認してください。

⑪エンジンが暖まっていない場合は、アイドリング状態で 1 分間程度暖機運転してください。暖機運転はスロットルレバーを操作せず、アイドリング状態のままにしてください。

(4) 停止

① ボールコックを閉じてください。



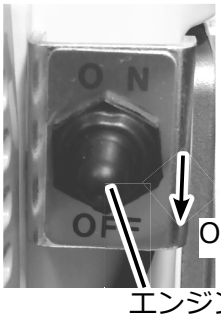
② スロットルレバーを「低速」にしてください。

※ 高速運転後は 1 分程度、冷却運転をしてください。冷却運転しないでエンジンを停止するとバックファイヤーが起き、爆発音を発生することがあります。



③ エンジンスイッチを「OFF」にしてください。

※ エンジンが停止します。



⚠ 注 意	
⚠	■ **本製品のエンジンが停止直後の場合は、マフラーやマフラーカバー、エンジン本体は熱くなっています。高温部分には触らないでください。** 高温部への接触により、火傷に至るおそれがあります。

(5) 緊急停止

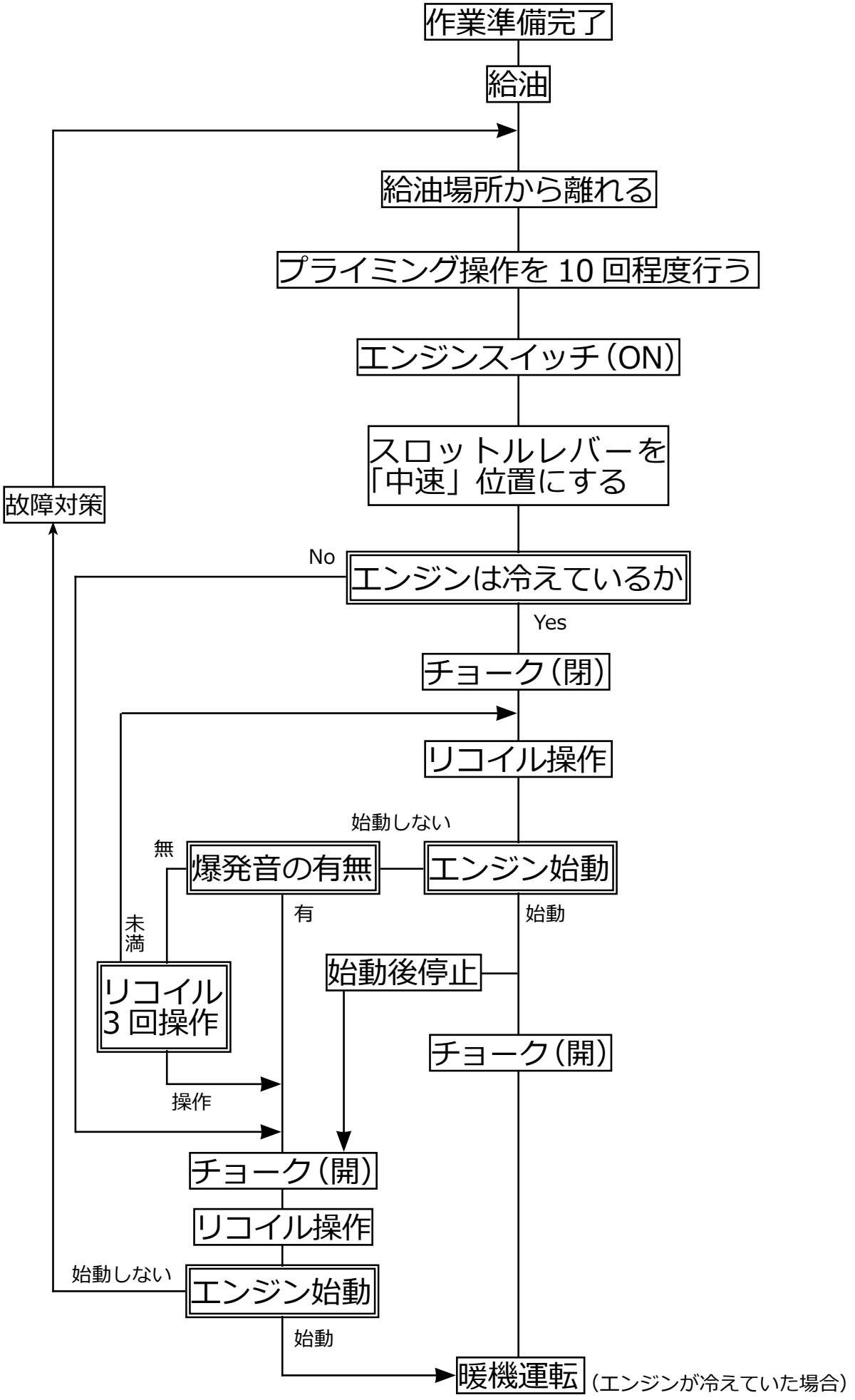
緊急にエンジンを停止する時は､エンジンスイッチを｢OFF｣にしてください。エンジンスイッチの故障で、スイッチを操作してもエンジンが停止しないときは、緊急手段としてチョークレバーを(閉)側の位置にしてください。エンジンは失速停止します。その後直ちにご購入の販売店にエンジンスイッチの修理を依頼してください。

※冷却運転を行わずに、エンジンを停止するとバックファイアにより、破裂音がすることがあります。

お願い

■ 緊急停止は機械に負担をかけ、寿命を縮めますので、緊急時以外は行わないでください。

(6)エンジンの始動フロー



6. 散布前準備

(1) 噴霧確認

作業前に清水で運転し、異常が無いかを確認してください。

① **23 ページの「(3) 始動」**を参照し、本製品を始動します。

⚠ 注 意

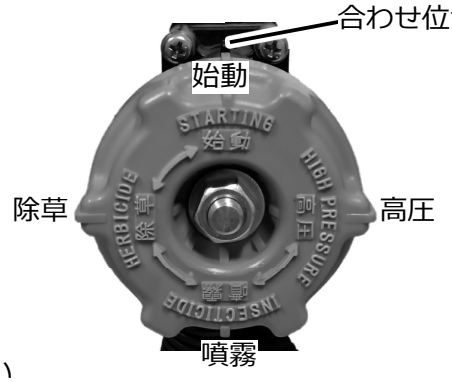
■ **本製品の全体の振動に注意して、特に振動の大きくなる回転速度では使用しないでください。**
振動が大きい状態で本製品を使用し続けると、故障に至るおそれがあります。

■ **ポンプを 30 秒以上空運転しないでください。**
ポンプが空運転になり、故障に至るおそれがあります。

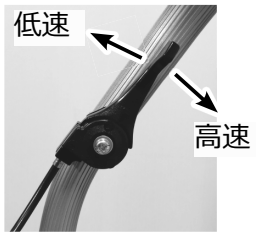
■ **本製品を操作するときは、エンジンのマフラーなどの高温部に触れないでください。**
触れると火傷に至るおそれがあります。

② 調圧弁ハンドルを回して、作業条件にあった圧力の設定をします。

<始動>
エンジン始動時に合わせます。
<除草>
除草剤散布などの低圧で噴霧する時に合わせます。
<噴霧>
通常の噴霧作業の時に合わせます。
<高圧>
高圧噴霧作業や噴霧ホースを長くして使用する時や、細かい霧の散布をするときに合わせます。



③ エンジンのスロットルレバーを以下の様に変更し、回転数の調整を行ってください。



合わせ位置	スロットルレバーの位置		
	中速	高速 (スロットル全開より若干戻した位置)	高速 (スロットル全開位置)
始動	○		
除草		○	
噴霧		○	
高圧			○

⚠ 注 意

■ **調圧弁ハンドルを「除草」、「噴霧」で使用する場合はスロットルレバーを全開位置よりも若干低速側に戻した位置に設定してください。**
守らないと、圧力に対して回転数が高い状態で使用することになり、本製品の故障や部品消耗を早める原因となります。

④ ノズルをしっかり握り、ノズル先を安全な方向に向けた状態でボールコックを開き、噴霧を行ってください。

⑤ ホースの接続部から、水漏れなどの異常がないか確認してください。

⑥ノズルからボタ落ちなどの異常がないか、確認してください。

⑦ 25 ページの「(4)停止」を参照し、本製品を停止します。

(2)薬剤の準備

薬剤をタンクに入れるときは、給水した後に行ってください。

警　告	
	■ **薬剤は飲み物や食べ物の容器、ペットボトルなどには移し替えないでください。** 誤って飲み込むと薬害に至るおそれがあります。
	下記の項目を必ず守ってください。 薬剤を誤って使用すると、薬害に至るおそれがあります。 ■ **薬剤のラベル、取扱説明書をよく読み、必ず記載されている内容を確認してください。** ■ **薬剤の知識を十分に持った人が薬剤を取り扱ってください。** ■ **人や動物がいる空間には散布しないでください。**
	■ **薬剤は余らないよう、散布計画を立ててから作成してください。** 余った薬剤をみだりに廃棄すると、法令違反に至るおそれがあります。 ■ **薬剤を取り扱う際は、保護具(保護メガネ、保護マスク、防水性保護手袋など)を使用し、十分に注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。** そのまま放置すると、失明や重傷に至るおそれがあります。また、かぶれなどを引き起こすおそれがあります。 ■ **薬剤の使用中に体に異常を感じたときは、作業を中止し、直ちに医師の診察を受けてください。** そのまま放置すると、薬害に至るおそれがあります。 ■ **薬剤は安全な場所に保管し、運搬するときは容器が破損しないように気をつけてください。** 薬剤が漏れ出すと薬害に至るおそれがあります。 ■ **薬剤は、幼児の手の届かないカギのかかる専用の場所に保管してください。** 幼児が触ると、薬害に至るおそれがあります。

注　意	
	■ **使用する薬剤の取扱説明書をよく読んで、用法、用量、使用上の注意を守って正しくご使用ください。** 濃度や散布量、薬剤の種類を間違えると、作物が薬害に至るおそれがあります。また本製品の消耗を早めます。 ■ **薬剤、水はゴミが混じらないように、必ずストレーナを通して薬剤タンクに入れてください。** 異物が入ると故障に至るおそれがあります。

お願い

■ 農薬取締法に基づく「農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令」により、農薬使用者は下記を遵守する義務があります。

1) 農作物や人畜などに害を及ぼさないようにする。

2) 周辺水域への汚染のないようにする。

3) 農薬ラベル記載事項（適用作物、希釈倍率、使用回数、収穫前日数）を遵守する。

4) 住宅地などでの農薬の飛散を防止する。

5) 使用した農薬の情報（年月日、場所、農作物、農薬の種類、単位面積当たりの使用量または希釈倍率）を記録する。

※ 詳細については農林水産省ホームページの「農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令」を参照してください。

■ 散布計画を立て、薬剤は余らないように作ってください。

■ 有機溶剤を含む薬剤のご使用はお控えください。有機溶剤はパッキン､ホース類を傷めやすい薬剤です。やむを得ずご使用される場合は、使用後すぐに必ず清水で十分に洗浄してください。パッキン、ホース類が損傷します。

■ 展着剤を使用する場合は、展着剤のラベルに記載されている内容に従って使用してください。

■ フロアブル剤の中には、原液で使用すると、パッキン・シール部を痛め、液漏れにつながることがあります。ご注意ください。

① 薬剤調合用に、バケツなどの容器を準備してください。

② 防水性の保護手袋と保護マスクを装着してください。

③ 容器で必要なだけ薬剤を調合してください。

※ 薬剤は余らないように作ってください。
水和剤を使用する際は、少量の水でよく溶いてください。

④ 薬剤を外部に漏らさないようにタンクに入れ、十分かくはんしてください。

※ ポンプを回しておくと、余水でかくはんすることができます。

7. 散布作業

(1) 散布作業

散布作業をするときは、下記の注意事項を守ってください。

⚠ 警　告

- ■ **ノズル先端をつかんで作業をしないでください。**
  ノズルからの噴射流が手に当たり、けがの原因となります。
- ■ **噴流の中に自分の体を入れないでください。**
- ■ **ノズルの先端をのぞき込まないでください。**
- ■ **薬剤を散布した直後の場所へ入らないでください。**
  散布後の薬剤の蒸気を吸い込み、薬害に至るおそれがあります。
- ■ **作業中の喫煙・飲食はしないでください。**
  タバコや手についた薬剤が口から入り、薬害に至るおそれがあります。
- ■ **作業に関係のない人は、散布作業の現場に近づけないでください。**
  薬剤がかかると薬害に至るおそれがあります。
- ■ **人や動物に噴霧しないでください。**
  薬剤がかかると薬害に至るおそれがあります。
- ■ **人や動物にノズルを向けないでください。**
  噴射停止であっても、残圧を抜かないと噴霧ホース内には高圧状態で水が封入されている為、不意の操作で高圧水を噴射し、けがや薬害に至るおそれがあります。

- ■ **薬剤の取り扱いに注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。**
  そのまま放置すると、失明や重傷に至るおそれがあります。
- ■ **頭痛やめまいを感じたり、気分が悪くなったときは、すぐに作業を中止して医師の診察を受けてください。**
  薬害により事故や重傷に至るおそれがあります。
- ■ **薬剤はタンクに残らないように散布してください。**
  残ったままで保管すると、次回使用時に薬剤が混ざって、薬害に至るおそれがあります。
- ■ **散布作業は朝夕の涼しい時間帯に行ってください。**
  気温の高い時間帯は散布後の薬剤の蒸気を吸いこみ、薬害に至るおそれがあります。
- ■ **風向きを考慮して、周辺の他の作物や畜舎、養魚池、水源地、河川、湖沼、住宅、通行人に飛散させないように散布してください。**
  薬剤の飛散により、薬害に至るおそれがあります。
- ■ **風上から風下に向かって作業してください。**
  風下から作業すると作業者が薬剤を浴びて、薬害に至るおそれがあります。

⚠ 注　意

- ■ **操作時にマフラーなど熱くなる部分に触れないでください。**
  やけどをするおそれがあります。
- ■ **ホースを足や車で踏まないでください。**
  損傷に至るおそれあります。
- ■ **ホースを継いで使用しないでください。**
  本製品が故障に至るおそれがあります。

⚠ 注 意

■ **ブロックやレンガ、壁やフェンスなどの角でホースが擦れたり、折れ曲がったりしないように注意してください。**
損傷に至るおそれがあります。

■ **作業中は異常音、異常振動、液漏れに注意し対処してください。**
事故や高圧水を浴びるおそれがあります。

■ **ホースを折り曲げたり、偏った方向に引いたり、ホースで本製品を引かないでください。**
損傷のおそれがあります。

■ **保護メガネと保護マスクは必ず着用してください。**
薬害に至るおそれがあります。

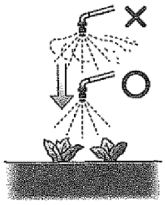
■ **降雨時は本製品に雨水がかからないようにしてください。**
ポンプ、エンジンへの水の侵入や故障の原因となります。

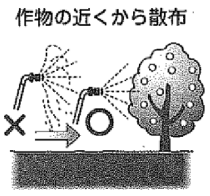
■ **不具合を発見したときは、直ちに作業を中止し、整備・修理してください。**
整備不良のまま作業を続けると薬害やけが、本製品の損傷に至るおそれがあります。

■ **タンクの残量に注意し、ノズルから霧が出なくなったら、ポンプを停止させてください。**
ポンプを 30 秒以上空運転すると、故障に至るおそれがあります。

下記の項目を必ず守って、散布作業をしてください。
誤った散布作業を行うと薬剤がドリフトし、周辺作物や周辺住民などが薬害に至るおそれがあります。

■ **風の弱い時に散布してください。**
■ **散布の位置や方向に注意してください。**
■ **適正なノズルを使い、適正な圧力で散布してください。**
■ **適正な量を散布してください。**
■ **園地の端部での散布作業は特に注意してください。**
■ **散布しようとする作物以外に、農薬がドリフトしないように細心の注意を払って散布してください。**





お願い

■ 必要に応じて薬剤タンクに薬液を補給してください。
薬剤タンクの残量不足で吸水しなくなったら直ちに停止してください。

■ 作業中は異常音、液漏れなどに注意し、もし異常があった場合は運転を中止し、対処してください。

① **23 ページの「(3)始動」**を参照し、本製品を始動します。

② **27 ページの「(1)噴霧確認」②、③項**の要領で使用圧力、エンジン回転数の調整をいます。

③ ノズルをしっかり握り、ノズル先を対象物に向けた状態でボールコックを開き、噴霧作業を行ってください。

(2) 散布作業後

⚠ 危 険

■ **本製品は防水構造ではありません。エンジンとポンプに水をかけないでください。**
感電やショートにより火災、事故、故障に至ります。
汚れた場合は布などで拭き取ってください。

⚠ 警 告

■ **清掃作業は必ずエンジンを停止し、冷えてから行ってください。**
ポンプが動いていると薬剤が出て、薬害に至るおそれがあります。また、停止直後のエンジンは高温の為、やけどや事故に至るおそれがあります。

■ **損傷個所がある場合は、修理してから保管してください。**
損傷個所があると、事故に至るおそれがあります。

■ **作業が終わったら､全身をよく洗ってください｡目をきれいな水で洗い､うがいをしてください。**
身体に薬剤が付着していると、薬害に至るおそれがあります。

■ **作業後は使用した保護具を十分に清掃してください。**
保護具に薬剤が付いていると、次の作業時に薬害に至るおそれがあります。

■ **作業に使用した作業衣は、他の洗濯物に薬剤が付かないよう分けて洗濯してください。**
一緒に洗濯してしまうと、薬剤がほかの洗濯物に付き、薬害に至るおそれがあります。

■ **本製品の内部に付着した薬剤は洗い流してください。**
薬剤が残った状態や付着した状態で保管すると、次回使用時に薬剤が混ざって薬害に至るおそれがあります。また、ポンプ、ホース、ノズルが損傷に至るおそれがあります。

⚠ 注 意

■ **散布作業終了後は、ポンプ、薬剤タンクの内部をきれいな水で必ず洗浄してください。**
ポンプ内部に薬剤が残っていると、故障に至るおそれがあります。

■ **付着した薬剤はきれいに取り去ってください。**
薬剤が付着していると、サビの発生や故障に至るおそれがあります。

1) 洗浄

① 薬剤タンクに清水を入れて運転、ノズルより噴霧し、各ホース、ノズル、ポンプ内の洗浄をします。

※ **27 ページの「(1) 噴霧確認」**を参照してください。

② ノズルから薬液が噴霧しなくなってからも、内部洗浄の為、清水噴霧を 2 ～ 3 分続けてください。

③ 運転を停止します。

※ **25 ページの「(4) 停止」**を参照してください。

2）水抜き

① 薬剤タンクのドレンキャップを外し、水を排出します。

② 水抜き運転を行います。ノズル、各ホースから水が出なくなるまで運転してください。

※ **27 ページの「(1）噴霧確認」**を参照してください。

③ 噴霧しなくなったら、直ちに運転を停止します。

※ **25 ページの「(4）停止」**を参照してください。

⚠ 注　意	
❗	■ **水抜きは確実に行ってください。** 冬期は凍結による機械破損のおそれがあります。 ■ **空運転は機械保護のため 30 秒以内にしてください。** 損傷のおそれがあります。 ■ **機械についた水滴や泥はきれいに拭き取ってください。** 錆や故障のおそれがあります。 ■ **高温・高湿を避け風通しの良い屋内に保管してください。**

お願い

■ ポンプ、ノズル、ホースの内部に水が残っていると凍結やコケなどの異物発生の原因となります。また弁の固着などの原因にもなります。内部に残った水をエアブローなどで完全に排出してから保管してください。

3）取り外し・格納

① ノズルを外し、水を取除きます。

② 接続部にゴミや砂が入らない様に注意して格納してください。

お願い

■ ホースを接続したままにするとパッキンを傷め、不具合の原因となりますので必ず作業後には取り外してください。

4）作業終了後

① 薬剤を保管庫に戻し、鍵をかけて保管してください。また、農薬使用日誌をつけてください。

② 保護具や使用した容器を洗浄してください。

③ 衣類を脱ぎ、全身を洗ってください。

お願い

■ **損傷個所のある場合は、修理してから格納してください。**
この場合、部品、消耗部品は全て当社指定の純正部品をご使用ください。

■ **直射日光を避け、湿気やほこりの少ない屋内に保管してください。**
冬季は凍結にも注意してください。

8. 点検・整備

⚠ 危　険

■ **点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。**
冷える前に行うと、火傷に至るおそれがあります。

⚠ 警　告

■ **本製品を運転しないとできない点検、調整、修理は絶対に行わないでください。**
機械に巻き込まれ、事故に至るおそれがあります。ご購入の販売店に依頼してください。

■ **取扱説明書に記載されていない整備・調整は、ご購入の販売店に依頼してください。**
正しい整備ができず、事故に至るおそれがあります。

■ **点検、整備などで外したカバーは、全て正しく取り付けてください。**
正しく取り付いていないと、巻き込まれたりして事故に至るおそれがあります。

■ **点検・整備は、水平な明るい場所で行ってください。**

お願い
- ■ 本製品を安全にご使用いただき、また長持ちさせるために定期的に点検を行ってください。
- ■ 安全にご使用いただくために年に１回、ご購入の販売店にて点検を行ってください。
- ■ 点検で不具合がある、不調の場合は整備を行い正常な状態になってからご使用ください。
- ■ 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をご使用ください。
- ■ ご自身での点検に不安のある方は、ご購入の販売店にご相談ください。

(1) 定期点検

下記の使用時間を目安に定期的に点検を実施してください。
各点検項目の実施方法については **35 ページの「(2) 整備」**を参照してください。

お願い
- ■ ご自身での点検に不安のある方は、ご購入の販売店にご相談ください。

点検項目		(毎日) 8 時間	25 時間	100 時間
エンジン	エアクリーナエレメントの清掃		○	
	点火プラグの点検清掃、調整		○	
	燃料フィルタの清掃		○	
	燃料タンク内の清掃		○	
ストレーナの清掃・点検		毎給水時		
ホースの傷や割れの点検		○		
水漏れの点検		○		
ノズルの詰まり・摩耗の点検		○		
各部の清掃および締め付け点検		○		
調圧弁の点検				○※

※印はご購入の販売店に依頼してください。

■ **給油一覧表**

給油項目	容量(L)
混合燃料	0.55

丸山純正混合燃料(別売)			
部品番号	464087	464088	464089
内容量	1L	2L	4L

(2) 整備

下記の作業手順に従って点検を実施してください。

お願い

■ この取扱説明書に記載された整備であっても専門知識や技能が必要となる場合があります。不安のある方はご購入の販売店にご相談ください。

1) スロットルワイヤの組み付け

スロットルワイヤに組み付け上で挟み込みやねじれ・張りすぎがないか点検し、問題があれば修理してください。

<ハンドル側のスロットルワイヤの組み付け>

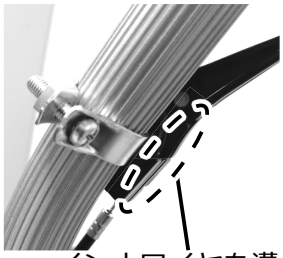
ハンドル側のスロットルワイヤが外れている場合、下記の手順に従いスロットルワイヤを組み付けてください。

①コントロールレバーを低速側いっぱいに戻してください。

②ワイヤエンド(タイコ)をトリガースロットルレバーの凹部にはめ込み、インナワイヤを溝に通してください。

③スロットルレバー下部の穴にスロットルワイヤ(アウタ)を奥まで差し込んでください。





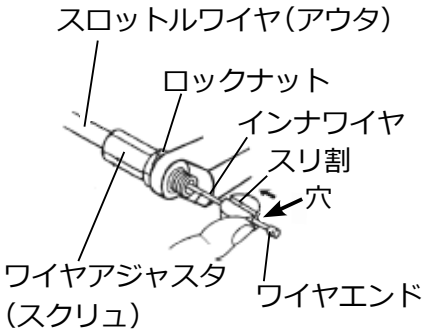


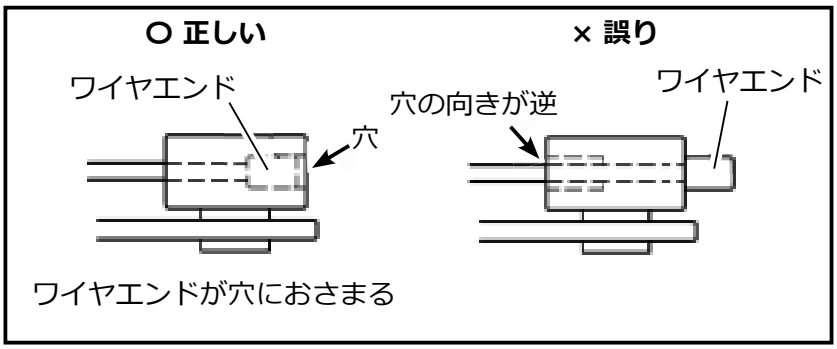
<エンジン側のスロットルワイヤの組み付け>

エンジン側のスロットルワイヤが外れている場合、下記の手順に従いスロットルワイヤを組み付けてください。

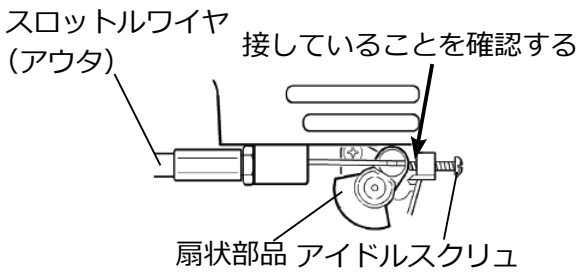
①クリーナカバーを開けてください。詳細は **36 ページの「2) エアクリーナの清掃」**を参照してください。

②ワイヤアジャスタ(スクリュ)にスロットルワイヤ(アウタ)を通し、ワイヤエンドをスリ割の穴に入れて、組み付けてください。





③スロットルワイヤの組み付けが終わったら必ずスロットルレバーを操作し、動作の確認を行ってください。
④扇状部品とアイドルスクリュの間にすき間がある場合、スロットルワイヤ(アウタ)がスロットルレバーの穴の奥まで入っていないおそれがあります。再度ワイヤの組み付けを確認してください。
⑤動作確認が終わったらクリーナカバーを閉じてください。



お願い
■ スロットルレバーから手を離した際、キャブレタの扇状部品がアイドルスクリュに接していることを確認してください。

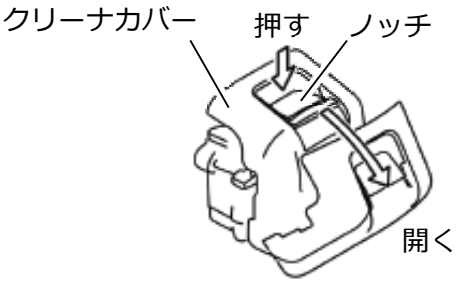
2)エアクリーナの清掃

<清掃の間隔>
エアクリーナのエレメントが汚れていると、エンジンの出力低下や始動不良が起こります。25 時間使用するごとに 1 回は必ず清掃してください。また、チリやホコリの多いところで使用した場合は、1 日 1 回清掃してください。

危 険

■ **ガソリンおよび混合燃料は引火性の高い燃料です。取り扱いの際は必ず火気厳禁を守ってください。**
守らないと火災や事故に至ります。

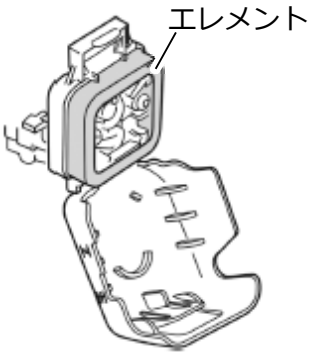
<清掃作業>
①クリーナカバーを開けてください。



②エレメントを取り出し、混合燃料で洗浄してください。

③エレメントをしぼってから元の位置に取り付けてください。

④クリーナカバーを閉じて、ノッチが確実に入っていることを確認してください(確実に入っていないと脱落のおそれがあります)。



⚠ 注 意

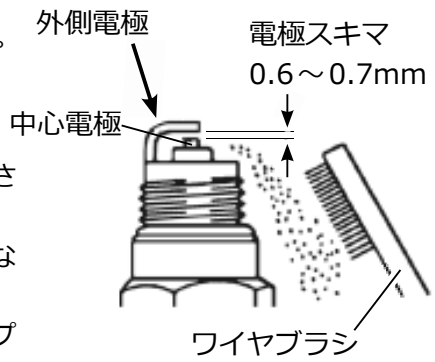
■ **エアクリーナやエレメントのない状態で本製品を始動させないでください。**
エンジンの故障に至るおそれがあります。

お願い
■ 洗浄して残った混合燃料は、18 ページの「(7) ガソリンおよび混合燃料の廃棄」に従って処分してください。

3) 点火プラグの清掃・調整

<点検の間隔>
点火プラグの点検は、25 時間使用するごとに行ってください。

<清掃・調整>
①付属のコンビボックススパナを用意してください。
②コンビボックススパナを使用し、点火プラグを外してください。
③電極部にカーボンなどが堆積している場合はワイヤブラシなどで清掃してください。
④中心電極や外側電極が焼けて丸く減っている場合は、点火プラグを交換してください。
⑤点火プラグの電極スキマは、0.6mm ～ 0.7mm (ハガキ 3 枚分程度) が正常です。広すぎたり狭すぎたりしている場合は調整してください。



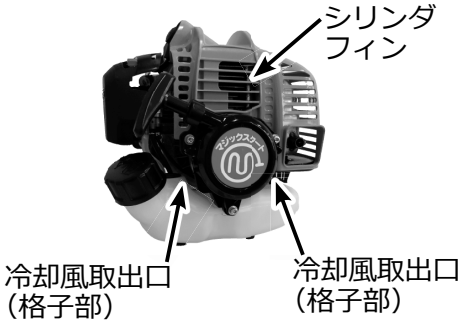
4) 冷却風通路の清掃

⚠ 注 意

■ **作業開始前に、冷却風通路にゴミが詰まっていないか点検してください。**
冷却風通路にゴミが詰まっていると、エンジンの冷却不良が発生し、オーバーヒートに至るおそれがあります。

■ 冷却風取入口 (格子部) 周辺のゴミを取り除いてください。
■ シリンダフィンの間のゴミを針金などを用いて取り除いてください。





5) マフラの点検・整備

マフラがカーボンで汚れているときや排気口にカーボンが付着しているときに、エンジンの出力低下が起こります。

お願い
■ マフラ内部、シリンダ、ピストンのカーボン除去作業には、専門の技術および道具が必要です。ご購入の販売店に点検・整備を依頼してください。

6）燃料フィルタ・タンクの清掃

危 険

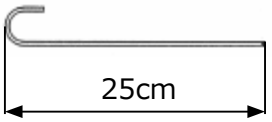
■ **ガソリンおよび混合燃料は引火性の高い燃料です。取り扱いの際は必ず火気厳禁を守ってください。**
守らないと火災や事故に至ります。

注 意

■ **燃料タンクと燃料フィルタの清掃には混合燃料を使用してください。**
水洗いなどをするとエンジンの故障に至るおそれがあります。

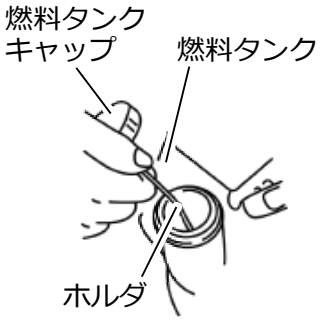
<清掃の間隔>
燃料フィルタが詰まると、始動不良や加速不足の原因になります。
25 時間ごとに取り出して清掃してください。

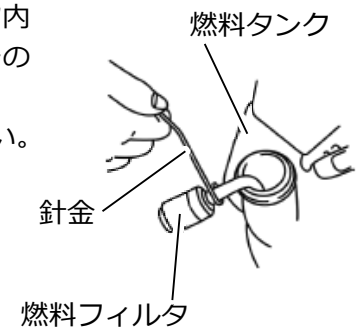
<清掃>
①右図のように曲げた針金を用意してください。



※市販の針金を図のように曲げてご使用ください。

②燃料タンクキャップを外した後、燃料タンクキャップを引っ張り、ホルダを燃料タンクから取り出してください。
③用意した針金を使用して燃料フィルタを取り出し、ゴミを取り除き混合燃料で洗浄してください。汚れがひどいときは、燃料フィルタを交換してください。
④燃料タンク内にゴミがあると燃料フィルタが詰まりやすくなります。ゴミを取り除き、燃料タンク内も混合燃料で洗浄してください。
⑤燃料フィルタの清掃、交換の後は、燃料フィルタが燃料タンク内で自由に動くように、燃料タンク内に押し込んでください。その後、ホルダも燃料タンク内に押し込んでください。
⑥燃料タンクキャップを取り付け、しっかりと締め付けてください。





お願い
■ 洗浄して残った混合燃料は、18 ページの「(7) ガソリンおよび混合燃料の廃棄」に従って処分してください。

7）ボルト・ネジの点検
各部のボルト・ネジのゆるみを点検し、ゆるんでいる場合は増し締めしてください。また、摩耗していたら新品と交換してください。

8）ホースの点検
各ホースに割れ、傷などがないか点検し、損傷があったら交換してください。

(3) 混合燃料の作成

混合燃料についての専門知識や技能がある方、ご自分で混合燃料を作る場合は下記の手順で実施してください。

危 険

■ **ガソリンおよび混合燃料は引火性の高い燃料です。取り扱いおよび保管の際は必ず火気厳禁を守ってください。**

守らないと火災や事故に至ります。

■ **ガソリンおよび混合燃料を保管する場合、金属製の容器に入れ可燃性の気体が漏れ出さないよう密栓をし、火気や火花を発する機械器具などから離れた、直射日光の当たらない、通風、換気の良い場所で静電気が帯電しないように容器を直接地面に触れる(アース)ようにして保管してください。**

守らないと火災や事故に至ります。

注 意

■ **購入から 1 カ月以上たったガソリン(お客様が作成した混合燃料を含む)は、本製品に使用しないでください。**

変質したガソリンを使用すると、エンジンの故障に至るおそれがあります。

お知らせ

■ **ガソリンの購入について**

令和 2 年 2 月 1 日から危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令(令和元年総務省令第 67 号)により、ガソリンを販売するため容器に詰め替えるときは、顧客の本人確認、使用目的の確認および販売記録の作成を行うこととされました。そのため、ガソリンを購入する際は本人確認書類の提示の要求や使用目的が聞き取りされ販売業者に販売記録が作成されます。ガソリンスタンドで購入の際は本人確認書類・消防法令に適合した金属製のガソリン携行缶を用意し、ガソリン購入時に販売記録の作成に協力してください。

1) 混合比率

無鉛ガソリンと市販の 2 サイクルエンジンオイル(※)、市販の燃料混合器(内部がきれいで水分のない状態であるもの)を用意してください。ガソリンとエンジンオイルの混合比率は下表に示す通りです。

ガソリン	:	オイル(※)
50		1
ガソリン１Ｌの場合はオイル ２０ｍＬ		
ガソリン５Ｌの場合はオイル１００ｍＬ		

■ 2サイクルエンジンオイル(※)は、JASO 性能分類の FD または FC 級をお使いください。

■上記指定以外のオイルや混合比は、エンジンの破損や不調に至ることがあります。

2) 混合の仕方

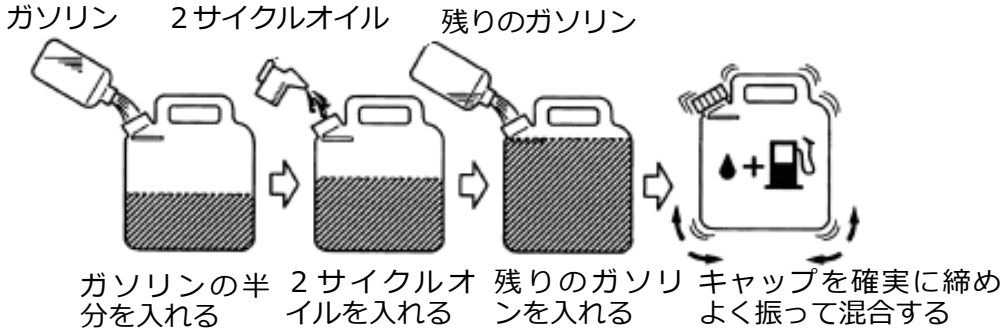
① 燃料混合器に混合するガソリンの半分を入れてください。

② 規定量のオイルを入れ、残り半分のガソリンを入れてください。

③ 燃料混合器のキャップを確実に締めた後、よく振ってガソリンとオイルを混合してください。

お願い

■ 混合燃料は、必ず燃料混合器で作ってください。



お願い

■ 残った混合燃料は、18 ページの「(7) ガソリンおよび混合燃料の廃棄」に従って処分してください。

9. 長期保管

■ 本製品を長期間（1 カ月以上）保管する場合は、下記の手順で整備をしてください。

本製品の汚れを落とし、**34 ページの「8. 点検・整備」**を行ってから保管してください。なお、保守点検ができない場合は、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。また、損傷箇所がある場合は、全て当社指定の純正部品を使用して、必ず修理してから保管してください。

⚠ 危 険

■ **海水の飛沫がかかるような場所や塩分の多い環境下で保管しないでください。**
部品の錆・接触不良・絶縁不良・劣化などにより漏電・感電・ショート・発熱・発火・故障の原因となります。

■ **本製品は湿気の少ない屋内の風通しが良い場所に保管してください。**
本体の結露は漏電・感電・ショート・発熱・発火・故障の原因となります。

■ **燃料を抜いた状態で、本製品を保管してください。**
燃料を入れたままですと、火災の原因となります。長期保管時は本製品から燃料を抜き取り、専用の容器で保存してください。

⚠ 注 意

■ **長期保管する場合は、必ずポンプや配管類の水抜きを行ってください。**
水抜きを行わずに保管すると、凍結によりポンプや配管部品が破損に至るおそれがあります。

■ **本製品は室内で保管してください。直射日光があたる場所には保管しないでください。**
凍結によりポンプが故障に至るおそれがあります。また紫外線により部品が劣化するおそれがあります。

■ **高温・高湿を避け風通しの良い屋内に保管してください。**

■ **シート等をかける場合は本製品が乾いてから行ってください。**
濡れたままシート等をかけると腐食の原因となります。

お願い

■ 各部を十分に清掃し、保管はチリやホコリが付着しないように注意して火気のない、高温や多湿にならないところに格納してください。

■ 取り外した付属品や小さな部品をなくさないよう、大切に保管してください。

① 凍結破損防止のために **32 ページの「(2) 散布作業後」**の要領で、水抜きを十分に行ってください。

② 各部のボルトやナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば増し締めしてください。

③ エンジンの燃料タンクの燃料を抜いてください。

④ キャブレターの燃料を抜いてください。

⑤ リコイルスタータハンドルを引いて、重く手応えのある所（圧縮位置）で止めてください。

⑥ 塗装のはがれた部分は、サンドペーパーなどで錆を落とし、塗料を塗ってください。

⑦ 機械外部を清掃し、オイルのしみた布できれいにみがいて錆止めをしてください。

⑧ 箱等に入れ、湿気の少ない風通しのよい場所に保管してください。

10. 故障と対策

☆印については、ご購入の販売店に調整・修理を依頼してください。

(1)エンジンがまったく始動しないとき

故障原因	対策	
燃料タンクに混合燃料が入っていない。	混合燃料を給油する。	
マフラの排気口にカーボンが詰まっている。	ご購入の販売店に修理を依頼する。	☆
不良燃料や水などが混入した燃料を使用している。	燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を抜き取り、燃料タンクや燃料フィルタ、燃料ホース内を清掃し、正しい混合燃料に入れかえる。	
燃料フィルタにゴミが詰まっている。	燃料フィルタを清掃または交換する。	
燃料フィルタが燃料の油面より上にある。	燃料フィルタを燃料タンクの底に押し込む。	
点火プラグにゴミが付着している。	点火プラグを清掃する。	
点火プラグの電極が消耗している。	点火プラグを交換する。	
燃料を吸い過ぎている。	点火プラグを外し、よく拭き取り、乾燥させる。	

(2)エンジンの回転が上がらなかったり、出力が十分でないとき

故障原因	対策	
チョークが全開になっていない。	チョークを全開にする。	
コントロールレバーが十分に開いていない。	コントロールレバーを十分に開く。	
スロットルワイヤの遊びが大きすぎる。	ワイヤアジャスタ(スクリュ)の調整をする。	
燃料混合比を誤っている。	正しい混合燃料比の混合燃料に入れかえる。	
燃料フィルタにゴミが詰まっている。	燃料フィルタを清掃または交換する。	
エアクリーナのエレメントが詰まっている。	エレメントを清掃または交換する。	
マフラの排気口にカーボンが詰まっている。	ご購入の販売店に修理を依頼する。	
冷却風通路にゴミが詰まっている。	冷却風通路のゴミを取り除く。	

(3)エンジンの回転が次第に下がるとき

故障原因	対策	
不良燃料を使用している。	燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を正しい混合燃料に入れかえる	
エアクリーナのエレメントが詰まっている。	エレメントを清掃する。	

(4) 吸水しない、吸水するが圧力が上がらない

故障内容	故障原因	対策	
吸水しない	吸水ホース接続緩み。	修正	
	吸水ホース、ストレーナの詰まり。	掃除、又は交換	
	タンクに水がない。	水を入れる	
	吸水ストレーナが水中にない。	ストレーナを水中に沈める	
	調圧弁ハンドルが圧力をかけたままの状態。	調圧弁ハンドルを始動位置にする	
	ポンプ内部品の摩耗、キズ。	交換	☆
	ポンプ内に異物。	分解清掃	☆
吸水するが圧力が上がらない	ノズル穴の摩耗。	交換	
	純正以外のノズルを使用している。	純正ノズルを使用する又はノズル数を少なくする・小さな穴径のノズルに交換する	
	調圧弁ハンドル内部品の摩耗。	交換	☆
	ポンプ内部品の摩耗、キズ。	交換	☆
	ポンプ内に異物。	分解清掃	☆
本体、配管からの水漏れ	本体（ポンプ部）からの水漏れ。	修理または交換	☆
	配管からの水漏れ。	修正	

お願い

■ 上記についてお調べの上で、故障が直らないときは、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。

11. 転売・譲渡・廃棄

転売・譲渡

- ■ 本製品を転売・譲渡する場合は、取扱説明書も同時に譲渡してください。取扱方法についてよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- ■ 転売先や譲渡者に、製品の状況を説明してください。部品が不足している場合や修理が必要な場合は、修理をするように指導してください。
- ■ 保証書も同時に譲渡してください（保証期間内の場合）。

廃棄

- ■ お住まいの地域の自治体の指導に従ってください。

お願い

- ■ 燃料やオイルを廃棄する場合は、お住いの自治体の廃棄物担当部署または産業廃棄物処理業者に相談し、所定の規則に従って廃棄してください。

12. 主要諸元

型式名		GS2550TR-50
製品寸法	全長(mm)	878
	全幅(mm)	485
	全高(mm)	834
乾燥質量(kg)		33.6
エンジン	名称	EE263P/03
	排気量（mL）	25.4
	定格出力(kW/min^{-1})	0.74/7000
	燃料タンク容量(L)	0.55
	燃料	潤滑油混合燃料
	使用潤滑油	市販２サイクルエンジンオイル
	混合比	50〔ガソリン〕:1〔FD, FC 級の市販２サイクルエンジンオイル〕
	始動方式	リコイルスタータ（マジックスタート）
	気化器	ダイヤフラム式
	点火プラグ	チャンピオン　CJ6Y
ポンプ	名称	水平対向２連ピストン式
	圧力（MPa）	0.8:1.6:2.5
	最高回転速度(min^{-1})	1930
	吸水量（L/min）	7.1
	調圧弁	ワンタッチ３段切替え式
	減速装置	歯車減速
	減速比	3.615:1

■ 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

サービスと保証について

■ 保証書について

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。所定事項が漏れなく記入されているか確認し、お読みになられた後は大切に保管してください。

本製品を改造した場合や取扱説明書に記載の正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

■ アフターサービスについて

○ 本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。年に一度は、ご購入の販売店に点検整備を依頼してください。このときの整備は有料となります。

○ 始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、直ちに適切な整備をしてください。または、ご購入の販売店にご連絡ください。

○ 連絡していただく内容

- ●型式名 _____
- ●製造番号 _____
- ●故障内容 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。



■ 補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、製品の製造打ち切り後９年です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。



しっかり点検！安心・長持ち！
末永くお使いいただくためにも
定期的な点検・整備をお勧めします。
詳しくはお求めいただいた販売店までお気軽にご相談ください。

本製品に関するお問い合わせなどは、ご購入の販売店にご相談ください。または、下記の全国共通の無料通話あるいは丸山製作所ホームページでもお受けいたします。

丸山サポートセンター
無料通話　0120 - 898 - 114
丸山サポートセンターホームページ
http://www.maruyama.co.jp/support/

受付時間　9:00 ～ 17:00（土、日、祝日を除く）

本製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、あらかじめ、下記の事項をご準備ください。

① 型式名、製造番号
② ご購入年月日
③ 販売店名

修理依頼、補修用部品・オプションのご注文は、
ご購入の販売店または取扱店へ依頼してください。

MARUYAMA
株式会社丸山製作所
本社 / 東京都千代田区内神田 3-4-15　〒 101-0047

この取扱説明書の部品番号は 835713
P/N. 835713-02　26.10